

50年後の乗鞍を考える

久々野高山営林署 地域振興センター 森林レクリエーション係 杉 浦 永 江

1 はじめに

乗鞍岳は当営林署が管轄する国有林で、中部山岳国立公園の南端に位置する火山です。剣ヶ峰3,026mを主峰に南北におよそ4キロにわたって峰々を連ね、岐阜県と長野県との県境になっています。

自動車で気軽に3,000m級の山に登れることから入山者は増加傾向にあり、昨年は100万人以上の方が訪れていることから人為的な動植物への影響がでています。

当署では、昭和23年から7～8月の入り込み者が多い時期、動植物の保護パトロールを行なっていますが、広い範囲であること、人数が足りないことなどから、十分なパトロールができないのが現状です。

このような乗鞍岳の現状に対し、入山者はどう考えているのか、アンケート調査を行い、その結果を踏まえ、土地を管理する営林署として、問題と対策について、関係各方面に意見を求め、将来にわたって乗鞍岳の自然をどう維持していくのか、また、当署としてなにをなすべきかについてまとめてみました。

2 調査方法と問題点

(1) 調査方法

① アンケート調査

日 時：8月14～17日 アンケート項目：15項目（内容省略）

場 所：乗鞍岳畳平周辺 回答率：98.8%（494名回答）

対象者：入山者500名

② 面接調査

8月下旬から11月下旬にかけて、関係各機関、乗鞍岳に造詣の深いマスコミ関係者や学識者、及びグリーンパトロール等（団体数7、個人11名）から、乗鞍岳の現状と問題点及びその対策等について、聞き取りをしました。

(2) 分 析

① アンケート調査

入山者を無作為に選び、意見を書いてもらったので、一般の方の率直な意見が聞けたと思います。乗鞍スカイライン等の渋滞のこと、美化のこと、国に対する意見等、多岐にわたっていますが、多くの方が問題意識を持っており、その解決に協力を惜しまないという意見が見られました。（集約結果省略）

② 面接調査

ほとんどの方が、現状の乗鞍岳に問題意識を抱いています。しかし、問題を解決するために係わる機関が多いこと、そのつながりの希薄さなどのため、思い切った動きが出来ないのが現状のようです。（集約結果省略）

(3) 問題点

最も問題となるものは、人為的な行為による動植物への悪影響のこととなります。

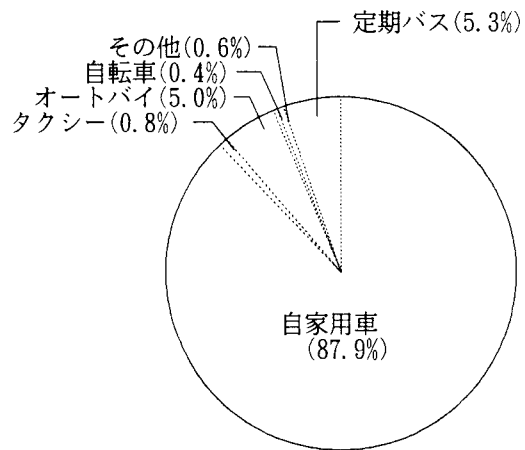
① 乗鞍スカイライン等の渋滞が原因

この図は、アンケート期間中入山者の交通手段を調べたものです。9割以上の方が公共交通機関以外の自家用車等で入山しています。

アンケート結果より

Q7 今回の利用交通機関は？

- ① 定期バス
- ② タクシー
- ③ 自家用車
- ④ オートバイ
- ⑤ 自転車
- ⑥ その他



山頂の駐車スペースが350台分しかなく、岐阜県側の乗鞍スカイラインと、長野県側の県道から上がって来る車を、すべて駐車させることができないため、渋滞が発生します。その間エンジンはかかりっぱなしなので、排気ガスによる影響、退屈しのぎに車から降り、植生帯に入ったり、そこで用を足すようなことが起こります。

② 踏み荒らし、盗採、ペットによる影響

踏み荒らしの増加で、以前に比べて車道や歩道沿の植物は減少しています。また、数字上の高山植物採取件数は少なかったものの、実際にはパトロールがない時期、早朝夕方が盗採があるようです。

スキーのための雪溪の出入り箇所と、休憩時における植生の踏み荒らしは深刻ですし、指定地以外でのスキーも目に付きます。

雷鳥は、高山にしか住めない国の特別天然記念物です、営巣期にそばでスキーが行われること、ペットの持ち込みでその屎尿による病原菌、追い回し等があると聞いており、影響が心配されています。

③ その他の問題

食事の残りやタバコの吸殻等を捨てていくことなども、悪影響となると考えます。

(4) 当署での検討

以上の調査をもとに当署の関係者による意見の交換、検討会を行いました。

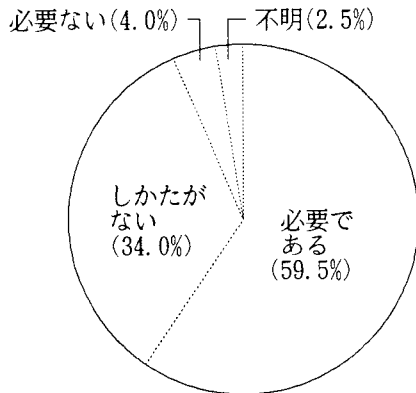
3 50年後の乗鞍岳を考えて

私達の考える50年後の乗鞍岳は、最低でも今の自然を維持し、希少な動植物と人間の共存を望みます。そのために、今すぐ始めなければ間に合わないもの、実行には期間を要するものの2つに分け、さらにその中で当署として対応するものを挙げてみました。

(1) 早期に実施するもの

- ① 自動車での入山について期間を決めて規制を行うべきです。お盆前後のピーク時の1週間だけでも早々に実施すべきと考えます。
- ② 高山動植物保護の啓蒙、植生復元を行うべきです。厳しい自然環境に生きる高山動植物のことをよく知れば、悪意のないつみとり、踏み込みは防げるはずですが、また、歩道端から植物がなくなったことにも原因があるので植生を自然な形で復元し、歩道から植物を観察できるようにするのがよいと思います。
- ③ パトロールの強化、長期化を行うべきです。盗採、スキーによる踏み込みは現在のパトロールの時期以外に起こっています。
- ④ 既成団体の強化を図るべきです。現在岐阜県には関係機関の団体があるものの、まだまだ連携が弱いと考えます。
- ⑤ 環境整備協力金を徴収し、自然環境の維持・向上のため有効に活用すべきです。下の図は環境整備協力金徴収に関するアンケートですが、必要である、仕方がないと合わせると、93.5%の人が協力的です。

Q11 乗鞍美化の為の協力金について お聞かせ下さい。	① 必要であると思う	294人
	② しかたがないと思う	168人
	③ 必要ないと思う	20人
	④ 不明	12人



- ⑥ 現地における立入禁止区域と、登山道、散策路、及び休憩広場利用区域の整備・明確化を行うべきです。入山者の休憩する場がないため歩道以外への立入りが起こります。利用するところは利用する、守る場所は守ると明確にすべきです。
 - ⑦ 駐車場のバス、自動車のエンジン停止の徹底を行うべきです。人間に悪影響を及ぼす排気ガスが、動植物に悪くないわけではないと考えます。
 - ⑧ ペットの持ち込みを禁止すべきです。尿尿等に含まれる大腸菌、雷鳥の追い回しなどの被害が心配されます。
 - ⑨ 夏山スキーの期間、場所について規制を厳しくすべきです。今でも6月1日以降は場所限定されていますが、違反も多く、雪が少なくなると植生を踏まなければ雪渓に入れません。
- (2) 長期的視野で行うもの
- ① 渋滞の解消のため、全面的な自家用車規制を行うべきです。多くの問題は自家用車で上がれるということに起因しています。
 - ② 身近な国立公園利用のルール作り、関係行政機関の協議会の設立を行うべきです。乗鞍岳は岐阜、長野両県にまたがっているので1つの県だけでは対処しきれないところもありますし、両県だけでも対処しきれないこともあります。また、国立公園に同一のルールがあれば、どこの国立公園に行っても同じなので、国民にもわかりやすいと思います。
 - ③ 自然保護センター（仮称）を山麓に設立すべきです。登る前に高山帯についての啓蒙を行ってからでないと入山させないようにすればよいと思います。

(3) 当署で実行するもの

- ① 植生の変化の定点観測、平均滞在時間等の、基本的なデータが不足しているので調査をしていきます。
- ② 既成団体である「乗鞍美化の会」強化のために関係各機関へ働きかけていきます。
- ③ 環境整備協力金の活用などにより、パトロールの強化、長期化をしていきます。
- ④ 動植物保護等の啓蒙活動、看板整備、チラシの作成・配布、自然観察教室の実施等を行います。
- ⑤ 環境庁や県と連携を取り、植生復元を実施します。

4 最後に

年輩の方々は言われます。「私が最初に来た頃は、こんなに人工的に開発されてなかったよ。」私はその方々の見た、過去の自然は写真でしか見たことはないので、今ある乗鞍岳が、自然なのです。

一度荒廃してしまった自然をその方々がかつて見たままに戻す。それは困難だと思います。しかし、今ある自然を維持することは可能なことなのです。

50年後、乗鞍岳に来て、「私が最初に来た頃は、もっとよかったよ」といわなくて良いように、行政機関、関係団体等、それぞれ出来ることを、今始め、そして一般の方にも働きかけていくことが必要ではないでしょうか。